



## 2006年丙戌 年頭にあって

新年あけましておめでとうございます。

18年の年頭に当たり、皆様に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

日頃より、福井県水産試験場の業務に対しご理解とご協力をいただいておりますことに、改めて厚くお礼申し上げます。

昨年は「異常気象」「凶悪犯罪」「テロ」など不安に駆られる言葉をよく耳にし、また、日本の人口減少が現実のものともなりました。不安が多く将来が見えない昨今ですが、本年は安心して日々の生活が送れるような明るいニュースを多く聞きたいものです。

さて、我が国の景気は回復基調にあるといわれますが、まだ我々庶民が実感できる段階ではないようです。水産業界はどうかといえば、燃油費の高騰、大型クラゲの大量発生などの影響もあり、回復の兆しは見えていません。福井県においても、近年漁業生産量が減少する中で、これらの直撃をもろに受けたばかりか、12月には悪天候のため出漁できない日が続くなどトリプルパンチを喰らった厳しい1年でした。

このような状況の中、「活力ある元気な水産業」を取り戻すためになすべき課題は限りなくあります。中でも漁業の根幹をなす資源の維持・回復と儲かる漁業につながる新たな技術開発は待ったなしで取り組むべき課題であり、水産試験場の使命であると考えています。現在、国で検討されている次年度からの「第3期科学技術基本計画」では、「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」を第一のポイントとして打ち出しました。試験研究に携わるものは、成果が国民に役立つものであることを示さなければなりません。本年は「福井元気宣言」の最終年であり、知事も新年の挨拶の中で今年はその総仕上げを行い、成果を確実に県民の皆さんに示すべき年であると言っています。そこで「研究成果の水産業への還元」を本年の第一目標に掲げたいと思います。

一方で、成果主義にも課題は多く、基礎力の低下が叫ばれています。このような時期にこそ視野を広げて現状を冷静に分析し、しっかり地に足をつけた研究を行って力を蓄えることも試験研究機関の役割です。それが基盤となって目前に迫った問題を解決するためのヒントを見いだすことができるものと信じます。いかに成果と基礎のバランスを取るかが課題でしょう。

今年は干支でいえば丙戌(ひのえいぬ)、「変動」「伸長」「輝」の年だそうです。丙戌は植物(生命)でいえば成熟したものが不要な枝葉を払い、次の再生・成長に備える状態を示すといわれ、転換の年ともいえるでしょう。歴史を遡れば、戊年には平城京(710年)や平安京(794年)の遷都、神聖ローマ帝国の成立(962年)などがあり、歴史の転換点にもなっています。私どもも発想の転換を図り、新たな気持ちで水産を支援する調査研究と技術開発に取り組みたいと思います。

テレビの旅番組などで紹介される福井県では、何といっても水産物が目玉として取り上げられます。これを水産に携わるものの誇りとして将来に残さなければなりません。今後とも皆様のご支援をいただきながら、福井の水産業が少しでも元気になり飛躍できますよう、職員一丸となって業務に努めて参りますのでよろしくお願い致します。

新年を迎えるにあたり本県水産業の発展の基盤を構築する新たなスタートの年となることを祈念し、あわせて、皆様方のご活躍と海の安全を心よりお祈りして、年頭のごあいさつと致します。

(福井県水産試験場長 伊藤 文成)

## 〔漁の様相〕

2005年12月の県内の総水揚量は435tで、2004年同月を420t下回った。アジ類の小アジ銘柄（2005年;53t, 2004年;26t、以下同じ）、水ガニ(33t, 21t)等は上回ったものの、ブリ類のツバス銘柄(3t, 26t)、キダイ(3t, 28t)、アマダイ(2t, 18t)、アカガレイ(20t, 91t)、その他カレイ(4t, 18t)、スルメイカ(83t, 171t)、ソデイカ(2t, 38t)、タコ類(7t, 19t)、ズワイガニ(17t, 43t)、アカエビ(3t, 22t)等は下回った。

## 漁業種類別の状況

定置網 ……アジ類の小アジ銘柄等は上回ったものの、アジ類のアジ銘柄、ブリ類のツバス銘柄、ソデイカ等は下回り、全体で63t下回った。

底びき網 ……セイコガニ、水ガニ等は上回ったものの、キダイ、アカガレイ、その他カレイ、アナゴ、ズワイガニ、アカエビ等は下回り、全体で188t下回った。

釣り・他 ……ケンサキイカ等は上回ったものの、マダイ、アマダイ、スルメイカ〔船凍イカ主体〕、ソデイカ、タコ類等は下回り、全体で170t下回った。

## 〔県内主要漁業の12月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越廼・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位:kg)

定置網			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
カタクチイワシ	331	93	16,524
アジ類	64,712	73,215	60,848
サバ類	294	84	1,967
マグロ類	44	2,316	1,751
カツオ類	231	3,587	48,193
ブリ類	9,616	39,219	124,076
ヒラマサ	4,766	1,624	9,197
シイラ	895	466	7,011
サワラ	31,504	40,792	27,338
サケ、マス	221	584	254
マダイ	1,866	4,515	5,420
スズキ	5,972	12,439	8,975
ヒラメ	1,190	2,284	2,974
カマス	1,024	4,144	5,796
フグ類	1,944	593	1,451
アオリイカ	5,184	5,470	8,971
ケンサキイカ	1,433	171	541
ヤリイカ	88	117	1,306
ソデイカ	1,078	19,385	35,691
その他	43,796	27,840	58,443
合計	176,190	238,939	426,726

底びき網			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
マダイ	4,334	5,098	2,733
チダイ	3,138	5,065	1,172
キダイ	2,137	25,532	9,357
ヒラメ	553	1,569	1,872
アカガレイ	19,590	90,972	81,760
その他カレイ	3,412	17,317	18,249
カマス	390	3,808	3,963
アナゴ	1,067	8,736	7,737
ハタハタ	2,054	431	2,430
キス類	0	1,163	1,974

底びき網のつづき			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
タコ類	1,573	5,695	7,056
ズワイガニ	17,039	42,996	41,689
セイコガニ	24,762	19,846	21,301
水ガニ	32,691	20,605	33,168
アカエビ	2,717	22,434	15,362
その他エビ	2,509	6,343	7,343
その他	20,116	48,325	54,338
合計	138,081	325,933	311,503

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
アジ類	82	155	262
マグロ類	260	125	276
ブリ類	4,359	5,240	10,275
サワラ	380	138	258
マダイ	1,372	6,669	5,522
キダイ	875	2,094	2,061
アマダイ	2,230	17,594	10,791
スズキ	411	293	693
ヒラメ	158	2,805	2,502
その他カレイ	54	165	230
アナゴ	151	700	1,144
メバル類	197	2,121	1,429
スルメイカ	82,674	170,787	194,392
アオリイカ	1,017	670	1,576
ケンサキイカ	4,970	12	1,232
ヤリイカ	3	5	796
ソデイカ	1,111	18,218	19,248
タコ類	4,909	12,562	14,472
その他	15,522	50,163	48,652
合計	120,735	290,515	315,811

総計	2005年	2004年	95-04平均
	435,007	855,387	1,054,349

## 〔近府県の漁模様〕

(12月下旬から1月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県 …… 定置網 …… アジ163kg、ブリ128kg、スルメイカ102kg、ガンド54kg  
 底曳網 …… ズワイガニ83kg、ニギス38kg、コウバコ35kg、アカガレイ32kg  
 京都府 …… 定置網 …… サワラ3.1t、カワハギ類1.7t、カタクチイワシ1.6t、マアジ0.5t  
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ88kg、マグロ11kg、ヤリイカ8kg、サバ2kg、ブリ2kg  
 鳥取県 …… まき網 …… マサバ27.2t、マアジ26.4t、ブリ類4.6t、ウルメ0.4t

## 〔海の状況 (12/21~1/20)〕

神子表面水温……天候の影響により変動が大きいものの、1月上旬頃までは、かなり低め（平年より1~1.5℃程度低め）からはなはだ低め（平年より2℃程度高め）で推移し、以降は平年並み（平年より±0.5℃）となった（図1）。

米ノ表面水温……期間全体をとおして、はなはだ低めから平年並みで推移した（図2）。

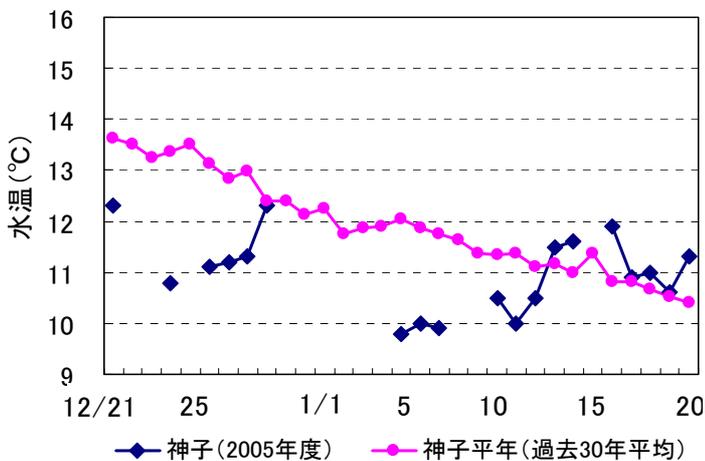


図1 若狭町神子地先における表面水温の推移

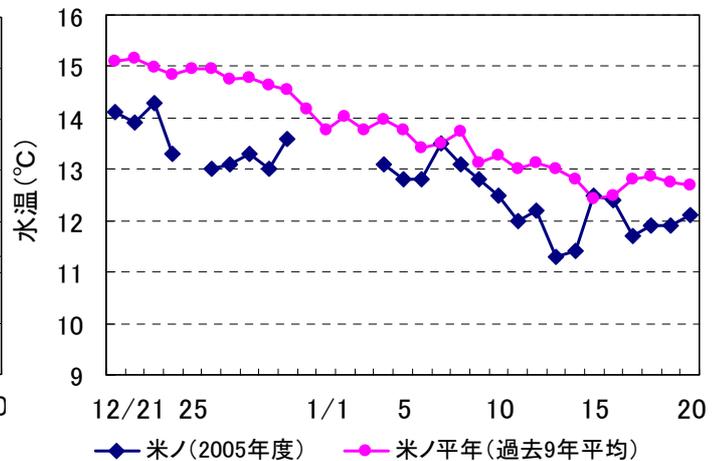


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……1月は観測がないため休止します。

(松宮 由太佳)

## 2005年度（平成17年度）セイコガニの漁模様（速報）

2005年11月6日に解禁されたセイコガニ漁は2006年1月10日で終了しましたので、県機船底曳網漁業協同組合集計の速報値をお知らせします。

県全体のセイコガニの漁獲量は166トン（対前年66%増）と、過去20年間で最大となりました。このことは漁期前調査で推定したように漁獲対象となる資源の水準が高かったことが同え、2002年に確認された卓越年級群が漁獲対象となって加入したものと考えられます。また、金額では361百万円（対前年23%増）、平均単価では2,174円/kg（対前年26%安）となりました。

(家接 直人)

## アマダイ（若狭ぐじ）こぎ刺し網の改良試験

アマダイは昔から「若狭ぐじ」として知られており、現在ブランド化が推進されている重要な魚種です。しかし、成熟するまでには、メスは2年以上、オスは4年以上かかり、持続的な資源利用を考えると再生産に加わる前の小型魚を保護することは重要です。

そこで、水産試験場では、小型魚の保護を目的として、平成16年度からこぎ刺し網の改良網の試験を行ってきました。今回は、平成17年度に行った試験結果の一部を紹介いたします。

**方法** 平成17年8月に高浜沖で若狭高浜漁協所属の漁業者の皆様にご協力いただき試験を行いました。試験網として、表1に示す3種類を製作しました。主な改良点は、①全体的に軽く仕立てた ②内網の目合を大きくした ③浮子(アバ)方を短くし、縮結(イセ)を大きくしたなどです。こぎ刺し網は1日2回操業するため、1回目は試験網、2回目は通常使用している網(以下持ち網)を用いました。操業ごとに、アマダイの全長や胴周囲長、漁獲尾数などを比較しました。

表1 試験網の構造の違い

試験網	目合	浮子方	沈子方
1.8寸①	鯨尺1.8寸	26.1ヒコ	27.5ヒコ
1.8寸②	鯨尺1.8寸	26.9ヒコ	27.5ヒコ
1.9寸	鯨尺1.9寸	26.9ヒコ	27.5ヒコ

**結果** 今回は、試験網1.8寸①の結果を紹介します。漁獲されたアマダイは全長別に「大(34~42cm)」、「中(26~34cm)」、「小(12~26cm)」の3種類に分けました。天候などの影響から、試験網と持ち網の両方の操業ができた4隻について、サイズ別の平均漁獲尾数割合(図1)を比較しました。

その結果、両網とも、「大」についてはほぼ同じでしたが、試験網は「中」が56%、「小」が28%となり、これに対して、持ち網は「中」が31%、「小」が53%となりました。このように、試験網では「小」の割合が持ち網の約半分に減少しており、小型魚の保護効果が示唆されました。

操業試験にご協力いただいた漁業者の皆様からは、網が軽くゴミがかかりにくいという意見もありましたが、船の規模によっては逆に軽すぎて操業しにくいという意見もありました。

今後も、意見を伺いながら、漁獲金額の比較など、実用化に向けた検討を行いたいと思います。

(平瀬 数恵)

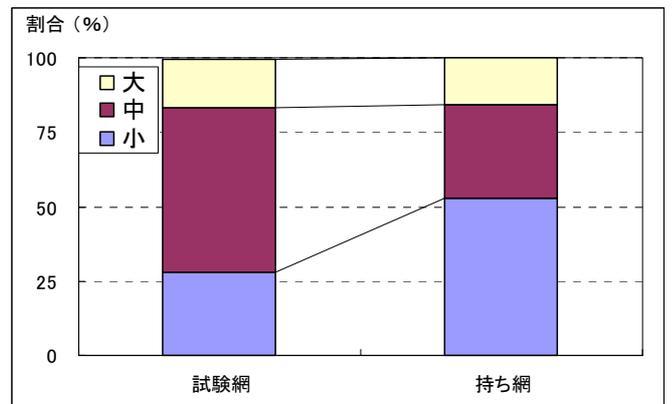


図1 試験網 (1.8寸①) と持ち網の平均漁獲尾数割合